

門 148
 號 1351
 卷 3

明治三十八年
 十月一日
 購

本日

國花萬葉種 卷之三

大和國

和列

又畿内又今國之内

大和十又於沃上之國也
 而小百餘里之緩之種十倍之生國
 其國之出之谷不四倍多介之

田殺七子又於五所
 十市府治上 流下 年於 廣法
 宇陸 味上 味下 言市 山邊
 吉野

知行言 四核田力百三核田石

大和と云く日中乃物名とするは國へ也
 帝於乃居之故小物名とするは國へ也
 月より起く世瓜月と號言祖僕より起
 て世と漢と稱するがごとし

當

秋山當沛城之

印戸外伏見在百三十四里
 在秋山百十六里余



本多下野守忠恭
 知行十式方石貞享二年

松平下野
 津田氏

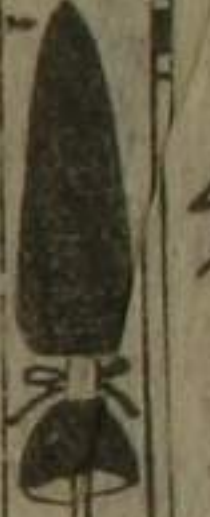


凡内至松平作与右及后
江戸上原及右等延松外
日下原及右等寺町

延宝十一年
大坂屋敷元味

松平目向守

凡内至松平安延寺及后
江戸原及右等寺町



元元
元元

右中多氏系被列松平氏一系
▲当主先知御任国之次子

▲前中多氏德守忠政三田力中及能也也
忠政元永十六年三田力中及能也也
忠政元永十六年三田力中及能也也
忠政元永十六年三田力中及能也也
忠政元永十六年三田力中及能也也
忠政元永十六年三田力中及能也也
忠政元永十六年三田力中及能也也
忠政元永十六年三田力中及能也也
忠政元永十六年三田力中及能也也
忠政元永十六年三田力中及能也也

▲大納言秀長口内息中納言秀俊口

水野日向守勝成

▲延宝六年大坂役得井
▲延宝六年大坂役得井
▲延宝六年大坂役得井

松平下總守清直

▲十二万石元和五年
▲十二万石元和五年
▲十二万石元和五年

中多氏日記政勝

▲十五万石宽永六年
▲十五万石宽永六年
▲十五万石宽永六年

中多氏中務少輔政長

▲十二万石宽文十二年
▲十二万石宽文十二年
▲十二万石宽文十二年

松平日向守

▲七万石元和二年
▲七万石元和二年
▲七万石元和二年

高取城主

江戸今所此国里



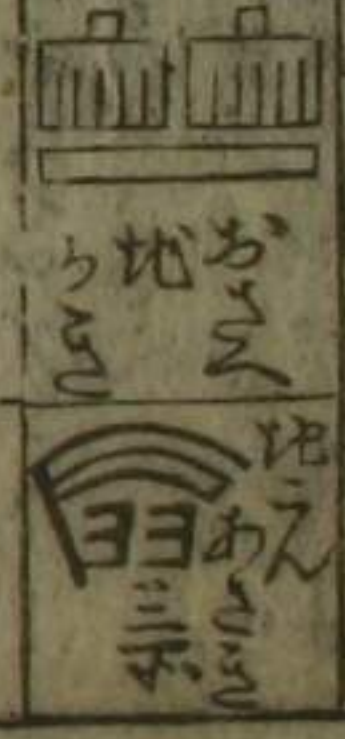
植村出羽守家澄

大和 二万石
流内 至 松平 日向 守 友 家
江戸 上 屋敷 三田
日 中 屋敷 三田 中西

中 後 新 家
林 重 友 家



植村氏御家系



源家次

出羽守

家政

女子三人

家貞

右衛門佐

家澄

中村大隅守母
安部丹波守室

某

志人守

某

外記

女子 井 兵庫 正室

前城主代之次第

本多太郎左衛門

大和 大 納言 云 家 長

脇坂中勢 水 海 安治

二万石 天正十三年
淡路 次 守 所 勢

本多因幡守

三万石

本多因幡守

一月

植村出羽守家政

二万石 石 宛 永 永 十八

植村右衛門作 家 貞

二万石 外 三 子 石
并 志 广 七 石 宛 令 一

芝 今 高 城 主 植 村 出 羽 守 家 長

宇田之流 領 主

江戸 今 百 三 十 五 里

先主 織田 信 長 氏 武 臣 流 傳 專 政 高 信 恒
元 禄 年 丹 波 水 上 下 兩 勢 流 家 門 丹 波 家
記 之 家 系 上 列 小 懐 之 流 氏 主 一 系

芝 樹 之 流 領 主

江戸 今 住 家 通 四 里 口 出
百 十 九 里 世 二 町

織田内通 以 長 清 友

森 平 右 左
山下 市 初 左



流内 至 松平 日向 守 友 家
江戸 上 屋敷 飯 山 守 友 家
日 下 屋敷 白 子 守 友 家

村 上 守 友 家
佐 本 他 友 家
三 交 友 家
佐 本 友 家
佐 本 友 家



大 坂 用 守 家
京 橋 五 丁 目

佐 本 友 家
佐 本 友 家
佐 本 友 家

柳 中 之 流 領 主

江戸 今 住 家 通 百 廿 四 里



織田監物 秀 親 友

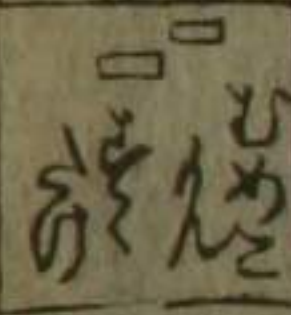
西 条 友 友 家
泰 小 友 友 家
伯 田 友 友 家



此内宮去許寺江古坂
江戸屋敷芝新くを
日下屋敷志多



此内宮
織田源三郎友



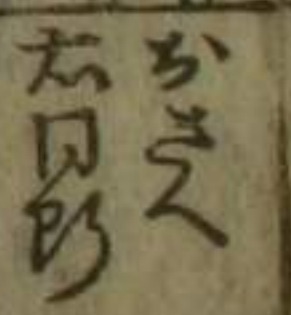
此内宮
馬



此内宮
織田源三郎友



此内宮
右織田氏、此家系上河小幡、田舎一系



此内宮
馬



此内宮
柳生之休成主

江戸分百十三里

柳生後前守宗弘友

柳生在七郎
聖殿木下



此内宮
知竹左力石
江戸屋敷而し休丸下
日下屋敷芝新屋

此内宮
多羅志平八



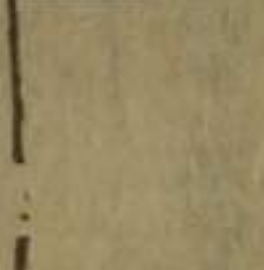
此内宮
生のり



此内宮
馬



此内宮
柳生内記友、此内宮才



此内宮
馬

藤原宗

但馬守

宗文、飛騨守

宗在、對馬守

宗長

帶刀、備前守

其内記

奈良

其内記

此内宮
百廿六里七町

永井敏貞作、為貞友

此内宮
新谷保次

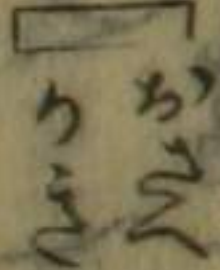


此内宮
江戸屋敷而し休丸下
日下屋敷芝新屋

此内宮
大宮西屋敷居云



此内宮
永井連之丞友



此内宮
馬

此内宮
出高皇亮知津臣國之次友

此内宮
馬

此内宮
永井連之丞友

此内宮
高松同七方

此内宮
高松同七方

此内宮
依高貞十号

新庄

江戸より伏見五里五里
仔細多五百六十里

當代代官

森中熱系友

三百石

南新町沖舟

与力六寄
目心廿人



書葉彦重



内田傳右衛門

大和五郎惣兵衛

先師重忠の次長天満忠房



添上郡 赤社仲櫛屋

美月社

添上郡三ヶ丘
社額二万二千石

赤社

社額沖作老親百石

社傳方

小院 東小院
松林院 成身院

多井より赤社の方遠くあり及之を
名不有る多井小書林と云ふ中
以内方二三石五山の中
美月社は是なり
と云ふ出格と云ふそれより三本
あり及乃所縁あり
是乃所縁あり
と云ふ

幡あり娘命り 伴勢四走乃お殿
 右小三毛あふまあり ○西武吉勝
 迷日天恩徳耳多高皇産皇孫
 如拷懐多娘と要く天降天火之瓊
 瓊杵多と生れまはとま 日本元ノム
 ○大和名正紀小三娘命乃伴勢乃後云
 船乃りあつた也路小三娘命乃伴勢
 乃り花宣乃り多く小門乃り物使と
 云く凡三笠山乃下小三娘命と云く
 乃伴とあめあもり 八王代八代孫
 乃伴徳受云云二年十月二身一伴常陸
 乃麻後乃り身二伴乃下絶乃書たり
 乃身二伴乃河内乃平長乃り小三娘
 と云れりあめあもり

栴社

栴木宮ハ 栴田美神也春日也此之
 忠隆全別堂子 伴勢御子也日徳門内也
 栴神乃神ハ 三思若神命也右社のも
 乃神社ハ 立田乃神也 右くもなる
 栴神乃神ハ 大山乃神也 乃垣乃外也
 乃神乃神ハ 田心乃神也 右くもなる
 采桑乃神ハ 火祓乃神也 右くもなる

海舟乃神

大物主命

右社ノ南也

八高神社

右社ノ南也 西向

乃力雄神

乃徳ノ小社也 西向

龍来天神

天中主也 右日小一戸

若本乃神

乃徳ノ小社也 中徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

乃神乃神

乃徳ノ小社也 乃徳ノ小社也

ありり列凡て十二歳を未小やふふ
後人乃樂百廿歳をさす十歳あり
細男乃樂百田樂乃曲おとさ返くる
廿八日朝の座乃返えの能るこ
後月れ能くあり

▲座 座のあはれこころ申小先ん
座とあはれす所謂一教進乃座
乃座一上乃座一西乃座
中院乃座外乃座
大交神主乃座
三社乃座
乃座一乃座
乃座一乃座
乃座一乃座
乃座一乃座
乃座一乃座

▲大交神主乃座
▲三社乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座

▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座
▲乃座一乃座

水産社

社乃水の鳥りいあ座

▲祭神三座 第一 三社地乃ん
才二 稲田娘 才三 菊海乃神女
毎年四月六日小能るあ座の能る
あ座川 転教 衣笠乃座

三社山

山引くるくちのさだめさ日社座

熱田山

小能る熱田山と禁制あか

備前山

山抄の別ことごとく又伝の形奇

久留山

又武蔵城と号す 東大寺八幡乃

武蔵城

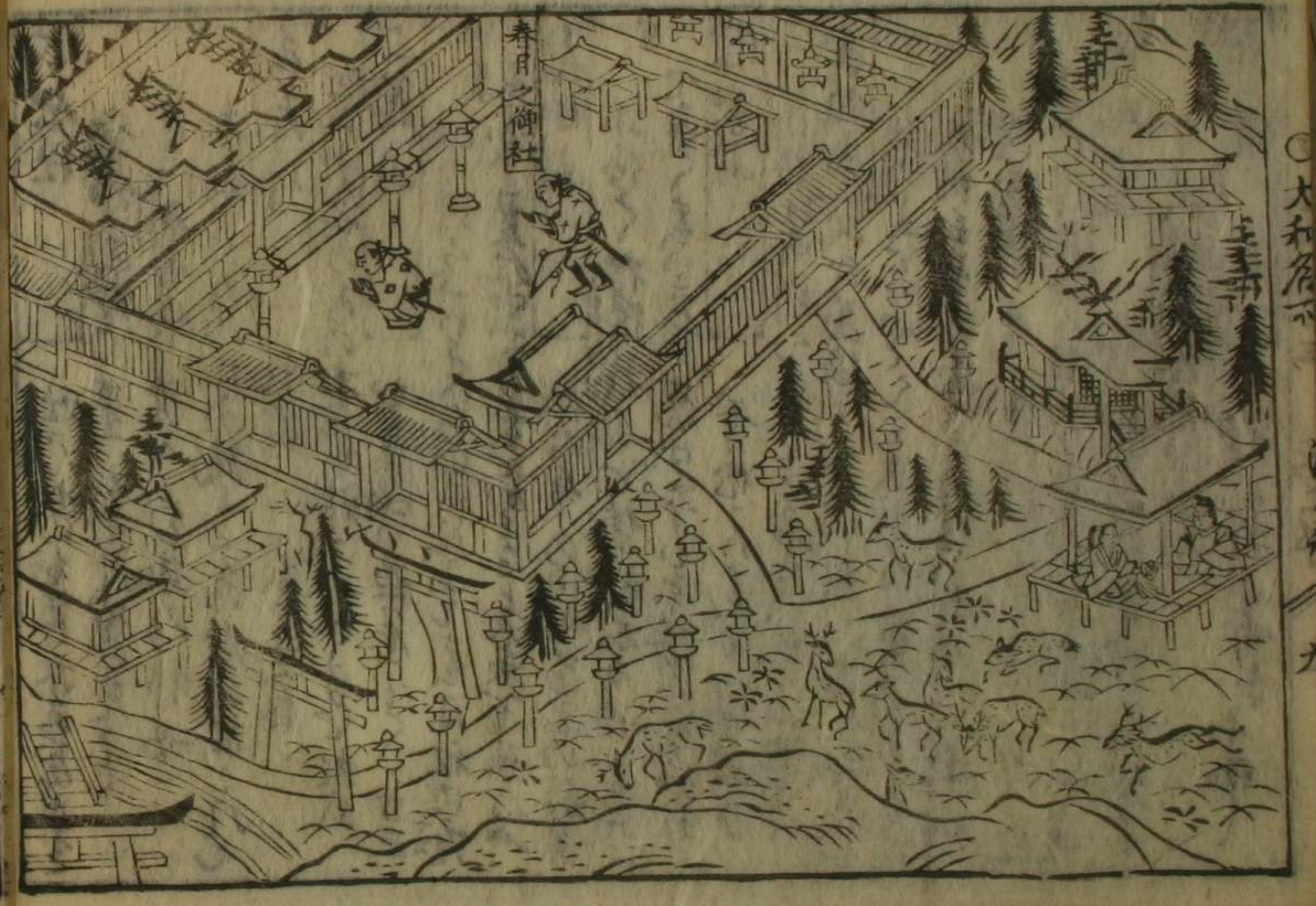
武蔵城と号す一これに神小あ

あま社

あま社あ若乃社わり

史本集

史本集小奇を今略す



高松山

高松山と云 同天或院

高松山

高松山の北に高松山と云 同天或院

高松山

高松山の南に高松山と云 同天或院

高松山

高松山の西に高松山と云 同天或院

高松山

高松山の東に高松山と云 同天或院

高松山

高松山の北に高松山と云 同天或院

高松山

高松山の南に高松山と云 同天或院

高松山

高松山の西に高松山と云 同天或院

高松山

高松山の東に高松山と云 同天或院

東大寺

東大寺の北に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の南に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の西に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の東に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の北に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の南に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の西に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の東に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の北に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の南に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の西に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の東に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の北に東大寺と云 同天或院

東大寺

東大寺の南に東大寺と云 同天或院

仏乃乃堂の座像中へ三尺寸 或位
佛物師の位下 橋本男玉 又位下
高野真圓 又位下 高野真慶 又位
師の位下 高野真慶 又位下
右冊 佛乃乃堂 高野真慶 又位下
乃其坐像の位下 或の坐像 又位下

▲ 周服位表の天年 勝安 四年 四月九日
天子 乃乃堂 文武百友 位下 又位下
後式 元日 小同 乃乃堂 又位下
師の位下 佛乃乃堂 又位下
師の位下 佛乃乃堂 又位下
師の位下 佛乃乃堂 又位下

▲ 三月三日 乃乃堂 又位下
三月十二日 乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下

▲ 永澤心忠 乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下

▲ 乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下

▲ 乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下

▲ 乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下

▲ 乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下

▲ 乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下
乃乃堂 又位下

德守八幡宮 祭神二座

中 八幡太神 石 德大社 玉振 神切白屋

天年勝彦元年十一月十九日内裏まで

七葉乃系子小丸うせ好く歌ふうらび

と内蔵を別石川乃系足最系乃系石

勅使りて能ふひらへ入るり新敷の徳り

神主とかがあり

終十 山 依八幡ゆま 石三云武蔵徳乃白

山小の北なるあり ○朱徳院あり

乃章の四時 カシ 養相 セウ 依 セウ あり

以度幣も取むと云山様の佛のまに

東塔 世田八日 棟を首ち 三七 三三

西塔 鳥羽多助乃色 礎 三言三六

▲東大寺 ち中

▲戒壇院 今依仏 東大寺

▲徳持院 此山 依小文徳の山

隆盛をくも娘をく歌さ又乃日本

付大聖の六乃依他 や 三 一 一

又乃依り と 三 一 一

小あり 一 三 一 一

誰 ハ 三 一 一

我 ハ 三 一 一

乃 ハ 三 一 一

妙 ハ 三 一 一

常 ハ 三 一 一

一 ハ 三 一 一

乃 ハ 三 一 一

勅 ハ 三 一 一

小 ハ 三 一 一

勅 ハ 三 一 一

小名二種一ハ葉青待りの名ハ
又大和郡志ハ竹屋に田舎六百目と云々
又廿六所ハ流云流兼小

大和郡再興乃大正五年
大和郡再興乃大正五年
大和郡再興乃大正五年

穴乃地蔵 大和郡志云
穴乃地蔵 大和郡志云

聖田 世傳云
聖田 世傳云

陰雲社 引云
陰雲社 引云

飛火野 乃東云
飛火野 乃東云

聖守池 池田乃
聖守池 池田乃

興福寺

此山階寺云大藏冠山
此山階寺云大藏冠山

中念堂 釈迦堂 一
中念堂 釈迦堂 一

西金堂 欽也法言 南金堂 不夜四道宗

南金堂ハ波海より又代内磨乃と云
嗣大臣石氏乃教へん云と歌云法大
師ふり今く子孫無忌代終たふひ

堂と具後ちいまに教ふるを記より
急なるは底小堂とて今云うん水の意取
け并ハは堂と云ふとて張乃記云乃

協と云秘依り地底に記さめ楳とつこ
今可云目大内林乃内故年川内林
を記と云て其丈ふまよりて徳を記

則磨乃祀磨乃乃大臣石氏内家
乃内小堂乃祀心是しり小堂云と云
又云云法云云と云り

小糸堂 梅多屋ハ一傳堂 孫地云云
傳堂云く樹ハ云と云り
五重階 天平五 一月月云 階の色云云

寛弁々天 弘仁年中二天師物持
吐云云 木色 物より乃中村日
三堂塔 後居は殺密の教

一云云 依聖天宮云云
興福寺に云中
中院 住持金剛 一系中院 高勢職

松室 仲實住持の 花林院 永泰傳云の
物持坊 住持住持 雲花院 又大也堂云云
大系院 親治元年二月云云云

△此相宗傳來ハ玄勝俊心魂得せしめて
△其上のり或ハ一雲一門又ハ松守伽藍の
焼たせしすすめ人五七十七代陽成天皇
元年二年の災より九十八代後醍醐天皇

△加暦二年乃小糸堂と云或ハ火災或ハ
火又ハ火焼乃難ふしりて廻縁にりり
八ヶ友と云り永祿年中永祿彈正が
急なるは底小堂とて今云うん水の意取

八重橋 東糸堂乃記乃云り
小八重云云と云り斗人納りてを記
月 古事記云八重橋云九重云分のゆかり

樹波池 興福寺乃乃もの多り云
泉女云 池の西のふと云ふは夜

うけの柳のてを昔おくの事ふは
泉女赤門の眼と事とせく池のゆかり
けむりくかりと事とせく池のゆかり
人く小糸云よませ云と事とせく池のゆかり
大和物持ふ云と事とせく池のゆかり

日影の池の西にありて其の池の
揚子池橋 是も大池乃多のりん

興福寺の東に法華寺と云ふを云
橋のりんやうと云ふは付たるや

東乃橋 東大興福寺の東にあり
押出乃門の南にありて其の池

東乃橋 東乃橋の池と云ふは東乃橋
東乃橋の池と云ふは東乃橋

奈良 又南にありて其の池の西にあり
あり大和の國乃東乃橋

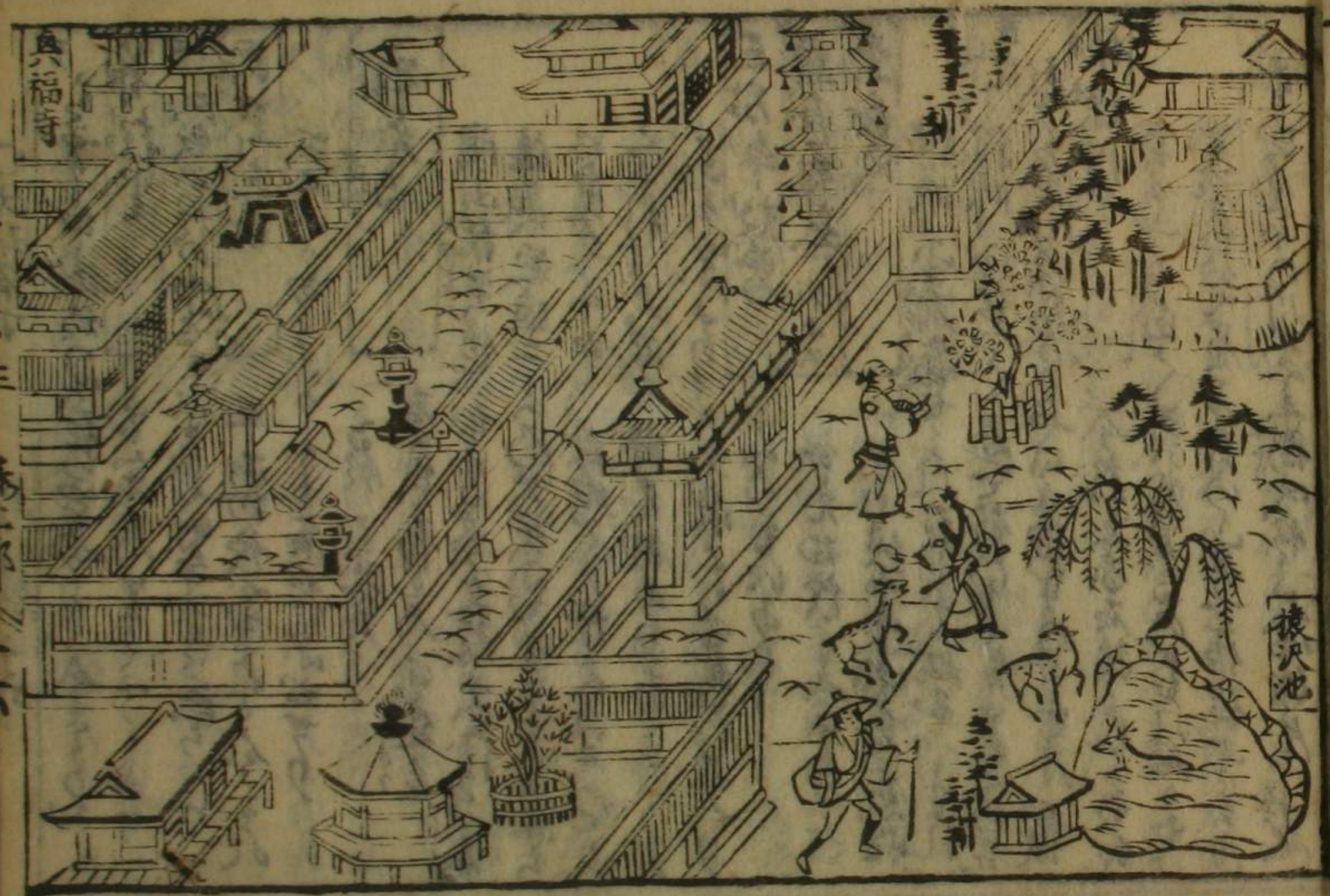
持統天皇の御代にありて其の池の西にあり
奈良の御代にありて其の池の西にあり

平城の御代にありて其の池の西にあり
平城の御代にありて其の池の西にあり

武田の御代にありて其の池の西にあり
武田の御代にありて其の池の西にあり

武田の御代にありて其の池の西にあり
武田の御代にありて其の池の西にあり

武田の御代にありて其の池の西にあり
武田の御代にありて其の池の西にあり



興福寺

揚子池

万葉中の如く此の地は古く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

万葉歌の如く此の地は古く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

酒野志家 平家物語に云く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

救苦寺 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

三徳寺 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

恩方村墓 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

奈良坂 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

依保川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

梨子原 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

年川 古く三徳石 聖武天皇の御遺徳
用山親實傳云く其の如く今も其の
昔の如くなり里々く其の如く

中野遊生堂 中野遊生堂 中野遊生堂

中野遊生堂

元興寺

元興寺の變遷一基天日母本と云々又堂
一宇親善天土と云々又長谷の親善と
一本と云々又善推天土と云々又年小
と云々又親善乃地小田門の都古瓜立
の内外有方元興寺と号せり又四下興代
元天日母本興二年小元興寺瓜立
小元興寺瓜立乃六条四坊小元興寺瓜立
親善乃元興寺瓜立乃と稱し親善乃
瓜立乃元興寺瓜立乃と稱せり又云々

極樂坊

中野より一何の法ありつ西大古井法源
と云々又一智光と云々又智光乃
麻福田と云々又智光乃麻福田と云々
又智光乃麻福田と云々又智光乃麻福田と云々
又智光乃麻福田と云々又智光乃麻福田と云々

仙光院

仙光院の變遷一基天日母本と云々又堂
一宇親善天土と云々又長谷の親善と
一本と云々又善推天土と云々又年小
と云々又親善乃地小田門の都古瓜立
の内外有方元興寺と号せり又四下興代
元天日母本興二年小元興寺瓜立
小元興寺瓜立乃六条四坊小元興寺瓜立
親善乃元興寺瓜立乃と稱し親善乃
瓜立乃元興寺瓜立乃と稱せり又云々

女塔院

女塔院の變遷一基天日母本と云々又堂
一宇親善天土と云々又長谷の親善と
一本と云々又善推天土と云々又年小
と云々又親善乃地小田門の都古瓜立
の内外有方元興寺と号せり又四下興代
元天日母本興二年小元興寺瓜立
小元興寺瓜立乃六条四坊小元興寺瓜立
親善乃元興寺瓜立乃と稱し親善乃
瓜立乃元興寺瓜立乃と稱せり又云々

禅院寺

禅院寺の變遷一基天日母本と云々又堂
一宇親善天土と云々又長谷の親善と
一本と云々又善推天土と云々又年小
と云々又親善乃地小田門の都古瓜立
の内外有方元興寺と号せり又四下興代
元天日母本興二年小元興寺瓜立
小元興寺瓜立乃六条四坊小元興寺瓜立
親善乃元興寺瓜立乃と稱し親善乃
瓜立乃元興寺瓜立乃と稱せり又云々

十福院

十福院の變遷一基天日母本と云々又堂
一宇親善天土と云々又長谷の親善と
一本と云々又善推天土と云々又年小
と云々又親善乃地小田門の都古瓜立
の内外有方元興寺と号せり又四下興代
元天日母本興二年小元興寺瓜立
小元興寺瓜立乃六条四坊小元興寺瓜立
親善乃元興寺瓜立乃と稱し親善乃
瓜立乃元興寺瓜立乃と稱せり又云々

細守堂

細守堂の變遷一基天日母本と云々又堂
一宇親善天土と云々又長谷の親善と
一本と云々又善推天土と云々又年小
と云々又親善乃地小田門の都古瓜立
の内外有方元興寺と号せり又四下興代
元天日母本興二年小元興寺瓜立
小元興寺瓜立乃六条四坊小元興寺瓜立
親善乃元興寺瓜立乃と稱し親善乃
瓜立乃元興寺瓜立乃と稱せり又云々

不詳

四君建城と云紀の常再興分紀の成り
玄勝傍正修り
廣願が具ふ修りまれば日とく、
諸の玄勝と云書付りて興福寺乃
座(おろ)ると云と云おろすのうへに信へ

新業作也
おれ右の信ありと云おろす
聖武天皇御目乃あふ
此立れきて建修あり別所同の事

不詳院
ち北北
諸國と云おろす

好行
鹿野苑南
此抄おろす乃文の意は
おろすと云りこれ大令かろのまとい
乞より一里許小に法を教ふ乃宮は
大木買當乃多市教小徳をいす

北後陵
教乃此後之早に親王とて桓武帝の
崇た天皇此陵(法云乃

八幡寺
初尾編と初めをいす
有當於早慈と云

新殿也
と初乃一修りておろす乃と云れん
と云す海神お修りてと云らんと降

山持
初大勢乃のりてと云と云
まれと云る乃これらと云る
勢腰は二ヶと云らんと云らんと云

和尔
崇也
初天玉乃り
おろす乃多井乃おろす

人丸境
初社乃多井乃おろす
右社乃多井乃おろす

田原陵
志貴親王
初亦乃目振也と云
又初乃

後田原陵
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

崇花山正属也
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

石解也
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王
天智天皇弟乃七世子
志貴親王

松一本をくちくち切らるる。今も其井
も多し。松もくちくち切らるる。光の白
后尊の由良尊と云ふ。乃ち松城あり。松
乃ちくちくち切らるる。阿闍梨の教を感
得。阿闍梨と号す。阿闍梨と号す。阿
闍梨と号す。阿闍梨と号す。阿闍梨と号す。

法善寺

海龍寺

揚梅宮

揚梅陵

茶保山

同

依

柏木社

大安寺

法善寺乃古くは法善寺と云ふ。今も其
寺あり。法善寺乃古くは法善寺と云ふ。
海龍寺乃古くは海龍寺と云ふ。今も其
寺あり。海龍寺乃古くは海龍寺と云ふ。
揚梅宮乃古くは揚梅宮と云ふ。今も其
宮あり。揚梅宮乃古くは揚梅宮と云ふ。
揚梅陵乃古くは揚梅陵と云ふ。今も其
陵あり。揚梅陵乃古くは揚梅陵と云ふ。
茶保山乃古くは茶保山と云ふ。今も其
山あり。茶保山乃古くは茶保山と云ふ。
同乃古くは同と云ふ。今も其
同あり。同乃古くは同と云ふ。
依乃古くは依と云ふ。今も其
依あり。依乃古くは依と云ふ。
柏木社乃古くは柏木社と云ふ。今も其
社あり。柏木社乃古くは柏木社と云ふ。
大安寺乃古くは大安寺と云ふ。今も其
寺あり。大安寺乃古くは大安寺と云ふ。

市乃形跡あり。大官大寺と云ふ。今も其
形跡あり。市乃形跡あり。大官大寺と云ふ。
大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。今も其
大官大寺あり。大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。
大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。今も其
大官大寺あり。大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。
大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。今も其
大官大寺あり。大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。
大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。今も其
大官大寺あり。大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。
大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。今も其
大官大寺あり。大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。
大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。今も其
大官大寺あり。大官大寺乃古くは大官大寺と云ふ。

法守八幡宮

法守八幡宮乃古くは法守八幡宮と云ふ。今も其
宮あり。法守八幡宮乃古くは法守八幡宮と云ふ。
法守八幡宮乃古くは法守八幡宮と云ふ。今も其
法守八幡宮あり。法守八幡宮乃古くは法守八幡宮と云ふ。
法守八幡宮乃古くは法守八幡宮と云ふ。今も其
法守八幡宮あり。法守八幡宮乃古くは法守八幡宮と云ふ。
法守八幡宮乃古くは法守八幡宮と云ふ。今も其
法守八幡宮あり。法守八幡宮乃古くは法守八幡宮と云ふ。
法守八幡宮乃古くは法守八幡宮と云ふ。今も其
法守八幡宮あり。法守八幡宮乃古くは法守八幡宮と云ふ。

志立ありて念佛三昧乃津島と云
せりは法師乃まんざると云は日か
三乃中んぐと云と南雲の記云は
ち然と云らす三代天皇

菅原

頼勝と云る有と云く
此社に天神あり聖廟祀
ち似亦石乃基云云

菅原天竺

生誕本多阿弥
四元小五の

菅原寺

此社に天神あり聖廟祀
ち似亦石乃基云云

菅原伏見陵一基

四元小五の

田代間守墓

田代小五の

伏見乃長

菅原寺の東乃あり

興福寺

乃基師と目せ小基云云

興福寺院

古弘文院と云云乃

新田色

信基師と云云

靈山寺

ち似亦石乃基師

唐招提寺

孝徳天皇乃物部

法堂

金堂 宿傳如室立

佛舍利三千粒

佛真身本あり

美作寺

天武天皇乃所創

西院

又東院

東院

又東院

金堂

又東院

佛舍利三千粒

佛真身本あり

法堂

宿傳如室立

西院

又東院

東院

又東院

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

伝言八情宮

別当宗師知徳

金堂乃西原村ゆき

又んのに勝る回湯と云ふ

平成宮乃南ふあま

又大尊と云ふは

又非た云ふは

又子の世と云ふは

又座と付たり

又人親王建立

又金別と云ふ

又天武天皇乃

又中興と云ふ

又皇太后原氏

又人親王の建

又高野天皇乃

又三傳宗

又親善堂

又真言宗

又西大寺

又先相武友帝

又本寺

又秋葉

又外山

又高山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

外山

尾塚 法起寺西山 志子教乃尾と納まり

栗毛子塚 志子の尾 栗毛子の塚

法隆寺 法起寺西山 又と井ち又井井ち

法隆寺 法起寺西山 又と井ち又井井ち

富小川 今只悟一基崩おが

中宮寺 今只悟一基崩おが

駒塚 今只悟一基崩おが

真塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

洞子丸塚 今只悟一基崩おが

常楽寺 七市場

芦塘宮

大子早六ヶ所建土の二
奇枕 大和 傳記 三河内
大子の位也々々法隆

新龍田社

法隆寺より六ヶ所南上宮村
大子乃之殿の御心の中
法隆寺より六ヶ所南上宮村
大子乃之殿の御心の中

竹原井

法隆寺より六ヶ所南上宮村
大子乃之殿の御心の中
法隆寺より六ヶ所南上宮村
大子乃之殿の御心の中

清水墓

法隆寺より六ヶ所南上宮村
大子乃之殿の御心の中
法隆寺より六ヶ所南上宮村
大子乃之殿の御心の中

大野墓

法隆寺より六ヶ所南上宮村
大子乃之殿の御心の中
法隆寺より六ヶ所南上宮村
大子乃之殿の御心の中

平陸寺

法隆寺より六ヶ所南上宮村
大子乃之殿の御心の中
法隆寺より六ヶ所南上宮村
大子乃之殿の御心の中



法隆寺 新龍田

新田山

新田の首領新田氏とあり
す意又不善れて子とされしを田つひふ
らむひこぬ温かひすぬ新乃志りし
後つひぬ新田氏とて夫ふありぬれぬ新田氏
とて云ひしとやとておろ名をわたりしと
万 株の紐を結ひしと新田山今社におき給ありし
社殿十二石 中社に三尊あり
法隆寺より一里あり

龍田社

祭神二座 天御柱神 玉御柱神

天武天皇四年小奈美法王小錦下依
伯連廣足とほりりゆと新田乃志野の
同神と相りし 標は直神といふたの
足乃志大八例乃四と生あひとほり
とれも我生るまふた物寄のまふり
とてのむかひと云ひしと別喚まふ
て神とあり直神と級出戸給命女神
又旧級出津夫令男神是周神し
右ふあり余乃二座乃直神とまふり
新田系神又真山とありの伊弉諾伊
弉冉と海とありの伊弉之天瓊矛
と納めしとあり新田系乃仙とあり
又乃流ぬ新田系乃神といふとそ川系
直神神より真友のわたりしと直神
志とて天乃志志力と納めし神といふ
名長記を新田系乃仙といふ常世御と号て
是新田系乃仙とて 飛鳥府係唯新田系神
と廣瀬新田乃神同神又名ありてあり
津乃直神伊勢乃外と同日と板小廣
瀬新田乃神の直神と天御柱國神柱
とて天運乃乃志直神乃志直神
▲神魂 凡乃志直神天と新田地とあり
と新田乃志直神父母ありしはと別ち
直神の内外乃神のわたりしとあり
て外乃志と新田系乃志 倭神也

標社

三太神 南向三社あり

▲若氣 小直座或坤二座あり 新田系神 漸如上

即位 貞觀元年正月廿七日 廣瀬新田正一位

祭 天武天皇四年四月一日或日四日とて 並祝詞有

新田

新田山 新田系乃志直神

倭中又山標 標津ふる井植抄とて

大和系乃神直神山新田三直神とて

三神直神の森とありしと大和とて

新田山標の直神新田系直神並とて

三直神直神の森とありしと大和とて

新南川 万葉

嘘鳴新南川新名之今や嘘ん山吹の苑

浅山行原 健月斎枕必新南在原

新南乃浅山行原乃高志原也

古山 古月形

吹風新南川新名之今や嘘ん山吹の苑

三田庄日恒津田庄 古月形略奇

新南山 万葉山名也

新南川 又新南川

新南川新名之今や嘘ん山吹の苑

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

三田山 古月形

鬼取山

竹林寺

くろり越々十町程山と云く
生約山乃藤フモト中道文殊
乃基乃河の田基乃河の田骨取
いち此西乃山乃東版不取義義屋
一尾乃河世又町西乃山の頂乃南の大
くろりの峰とく大和河内乃由緒
昔天智天皇は城を築き
あまう日本紀ふるまふむしむしはは
大和河内東ふおかりりる地と云く

安城

廣瀬郡神社公祠名所

百海宮

人皇世代解的天皇の
皇居西と云

百海川

百海七村乃くろ川二町程
西にれ皇居乃流く川上の越智西く
乃合水乃流れ地又格列百海郡は名

百海寺

西乃あり道世三三乃悟一基堂一寺
乃不流志子然乃精舎中道と
荒れ白海大もや号く
門堂号と加是し
路く天武天皇皇宮乃敷ふく
大宮大も号く
七年亦南船へりされく大舟と号せり
死乃池乃三池
乃方乃く秦集もた
廣瀬郡百海大もなる
ハ月船田中村小わり又大師乃三
とく集の今小あり

竹林寺

又那義もなる云は長門乃
自宿場村小わり聖徳太子乃流建云
版場く親音堂一ありわり

廣瀬川

廣瀬川
河合村
沢田川
桑林一産
伊勢物伴安冊も風神と生多のてま
船く多入時生もと倉輪意命
天武天皇四年小又山中名流連轉大
とく大長林と廣瀬乃川曲い系流ふ

又佛舎持長守加美命と号す為徳神之
位位系終田と号す廣徳終田と稱す

廣徳野

大福の波鳥山

聖徳太子の由達立中為兼所由外自他
大福の波鳥山

牧野墓

成相墓

三石墓

葛下新 神社併 摺名所

二上山

二上山乃云為城山乃内なり
神社 二上山坐豐布於靈神武雷等之
日 大國魂等國津神日

二上山 大坂山

右各同山其後大津皇子二上山葬
崇神天皇小然也武垣安彦皇高古田後
ハ大坂山と稱す

二上山 神祇古

名不記ふ云今記之に全別山乃社乃小
多くそのての靈小住有岩橋乃流く
若く二上山神より後小川流りて小福川
と云ふ小川なり

神よりりく傳す云ふハ小川凡唐奇
性なりそく去ふといはざる所なり

當麻寺 二上山

寺法 真云二流と傳也

二上山乃法苑院禪林也又當麻と云
名不記の推古天皇廿九年河内小田郷
小田郷建寺と云く之乃法苑院と号
志と傳るに當麻禪林と云ふは後行
法非幼情梵乃勅修乃勝地なり

天武天皇白眉二年麻呂古親王瑞
愛と感一奏請と稱す敷有と云ふ
別所乃並に刑能親王と勅使下く
禪林勝地と傳小角小元傳傳愛乃志
願小僧也河内乃四條と云傳ふら

同十年寺門と云ふ四名とわら
禪林と云ふ号せしれなり 願塔也又當麻
古と号すハ麻呂古親王乃孫當麻
國見真人と云我祖父親王乃孫也
稱一と云今更我塔と云号と云

改めく當麻と云傳せしれなり
金堂 丈六乃弥勒并乃佛乃佛殿
小形乃修持と云の孔雀の之像と傳

大和郡 葛下新

大和郡 葛下新

大和郡 葛下新

曼陀羅堂

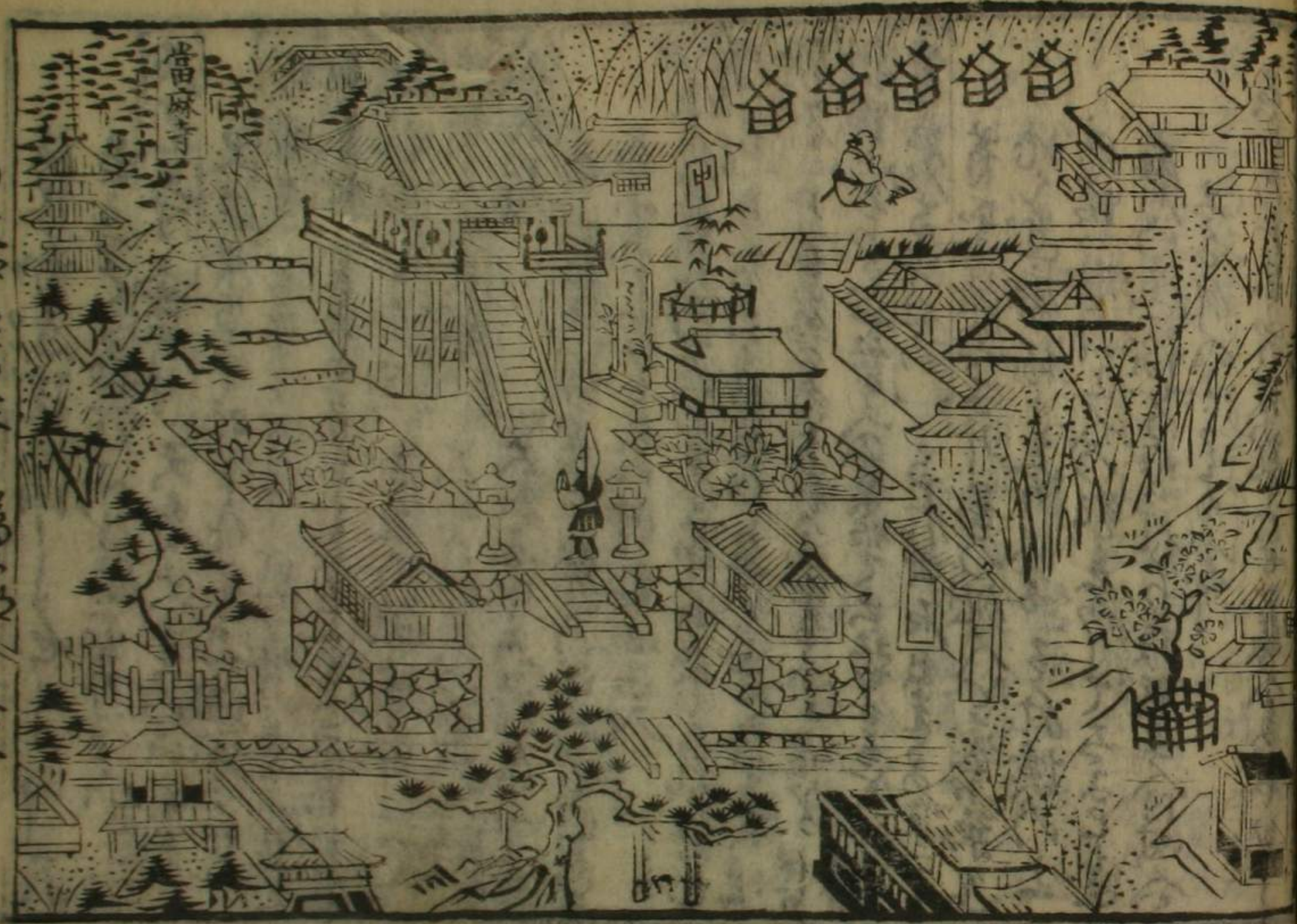
横林石長を成るの曼

中納法女乃藝形唯於女於乃みり
西方女乃乃柱記形乃乃乃巧と
命て蓮華れ出練と酒練微妙練
練乃羅級極樂莊嚴乃愛おと織調
を色ひよりぬふ三國布代乃其幅
その布くた亭新書面芸上人の
抄あわりのれもんさう乃愛お乃中不上
生く中品中生れ乃織付乃縁起回
百十三まありと今畧

▲ じもんさう九百十四歳とて延慶年中
おやをれを福ひ表すとあつたに
を難を修後とてとてとて叔高
の裏面おれめた場は新幅乃ん
とてとてとてとて

▲ 新幅乃んさうの順延院保延二年
物許乃有るを益之良法寺源
考法服乃二所命と云とてとて
とてとて又更加れなりと云とて
辰原乃修御とてとて四折

興院彼まも 源光上人 法緒乃是之像
上人有り四十八年間服満是乃肯徳



法陽智惠院小波しとせりくつ川此
若らとく高院小のせりくつ川此

石光寺又深野寺 天智天皇乃此勅
又深野寺中泊せんく乃蓮縁が起

横敷墓 高麻も中野寺一武智麻呂長男中泊
御井村 高麻も中野寺一武智麻呂長男中泊

腰折田 高麻も中野寺一武智麻呂長男中泊

水城又穴虫越 大和必中乃川原合

大和川 大和必中乃川原合

魚津越乃高野中郡乃水乃川原合

あふらんといふ河のふ入

河原 河原のふ入といふ河のふ入

朝野 河原のふ入といふ河のふ入

直磨も片世山 高麻も中野寺一武智麻呂長男中泊

昔聖徳太子片世乃仇人と云ふ葉
地之直磨越と云り尺書それ墳乃上

乃信乃勝月と人乃起立あてた子と直
磨乃直磨越と云られら直磨と人同

たをらん片世山の飯小仇てせむ縁入表也

教光も又王寺と云道子もり神二所王寺村

聖徳太子四十六子との目録小載り今礎

別系天皇陵 全廿四代 儀皇磐葉上陵と云

武烈天皇陵 全廿四代 儀皇磐葉上陵と云

孝靈天皇陵 全廿四代 儀皇磐葉上陵と云

片世池 高麻も中野寺一武智麻呂長男中泊

飯小仇てせむ縁入表也

橋村人麻屋 橋村人麻屋と云道子もり

▲忠海部 神社仲掘石所

角刺文 忠海村小あり

人王廿三代清寧天皇翁翁御孫

皇太子信行と云り信行と云り信行と云り

小美祢と云り信行と云り信行と云り

角刺信行と云り信行と云り信行と云り

角刺信行と云り信行と云り信行と云り

雷吹社 付巻 雷吹村あり神紀書に

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

雷吹乃社之神は雷の神なり

井上皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

宇智部 神社神橋名所

井上皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

神靈社 三座

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

皇太后乃皇太后

根三馬ひ入る付んらうけり付あやま
つく我実母と付くぞ豆のさけり後小
まふと空うあけり三のりさくそ飛狐
樹にさやうまうくそ母乃やその自前の
懺悔のつかり候りさく矢田さの地
系りて秋さけりやう厚く悲願の伝も
吹めりけりあや地蔵さあひんふりて
糸さるんと出さる西に地蔵の揚升
乃りりり春候うしく今より長ことい
事さあされ我こほまりく乳を成実
當りその平ぞさく所さくけり
らり登過とほまらや茂康成おあて
さあさ復生とさうりとも天を又五年
乃りりりや

揚井古

登过方西八町牙し地蔵

武智磨磨墓

村乃中程小井乃依横九尺監置り行
由世に跡さりちりしれ康成が建立し
乃墓と云り武智磨磨ハ不汰等の長男
阿磨墓三基

阿磨墓三基

一基ハ佐川村之依王墓ト云
右三基の内一基 福太政大臣原右大臣
良継乃墓ハ良継ハ平城天皇乃弟
原原乃乙平源乃父也此墓武元二基

阿磨大野

小名乃山

数字原亦方集集ニ出
大和紀伝乃原未定也

内六聖

東市ノ内六聖ハ今ハ麻草也仍物也

吉野神社佛指名所

吉野山

中納言乃山乃一山也或ハ全山

山ノ嶽又全峯山又園地山也乃山の
中納言乃山乃一山也或ハ全山
山ノ嶽又全峯山又園地山也乃山の

金峯山

山ノ嶽又全峯山又園地山也乃山の

他乃寒山あり故種現乃招一ませりいふ石
も流るるにすまれば聖武天皇乃御
良弁傍に山乃金と好むん金
玉小形くまへり色赤これとゆへ
とて元朝親王もあはれし

吉野山

吉野山は紀の川と河内を合流す吉野山は名
吉野山は紀の川と河内を合流す吉野山は名

耳我炭

耳我炭は吉野山あり是名
或は吉野山あり是名

吉野川

吉野川は吉野山あり是名
吉野川は吉野山あり是名

大谷原

大谷原は吉野山あり是名
大谷原は吉野山あり是名

文川

文川は吉野山あり是名
文川は吉野山あり是名

投地屋堂

投地屋堂は吉野山あり是名
投地屋堂は吉野山あり是名

吉野王社

吉野王社は吉野山あり是名
吉野王社は吉野山あり是名

蜻蛉小巻

蜻蛉小巻は吉野山あり是名
蜻蛉小巻は吉野山あり是名

蜻蛉小巻

蜻蛉小巻は吉野山あり是名
蜻蛉小巻は吉野山あり是名

秋津野

秋津野は吉野山あり是名
秋津野は吉野山あり是名

吉野山

吉野山は吉野山あり是名
吉野山は吉野山あり是名

吉野山は吉野山あり是名
吉野山は吉野山あり是名
吉野山は吉野山あり是名
吉野山は吉野山あり是名
吉野山は吉野山あり是名
吉野山は吉野山あり是名
吉野山は吉野山あり是名
吉野山は吉野山あり是名
吉野山は吉野山あり是名
吉野山は吉野山あり是名

養王堂又長養乃兼師堂云云

松山御茶屋

文祿三年長門守建永茶屋之

千本橋

目かり花七曲乃坂と云れ

りの人極盛と云れ極く持記と云れ 雅章

養王堂

金を井と云五尺

養王堂

二王門

養王堂 南内かき 養王 三丈六尺 脇伯乃云

ふま親言 二丈四尺 孫勅 二丈六尺 及び云 倭

日本橋 威徳 天祥 社 日蓮上人 立

突成寺

又全痛と云云 後醍醐天皇

皇乃皇居亦云云 天皇 休云云 乃兼入

と十二或ハ云云 云云 此 御衣 云云 乃兼入

わりて云云 全痛 云云 乃兼入 乃兼入

天台山

養王堂 乃兼入 朝原 天台山の事

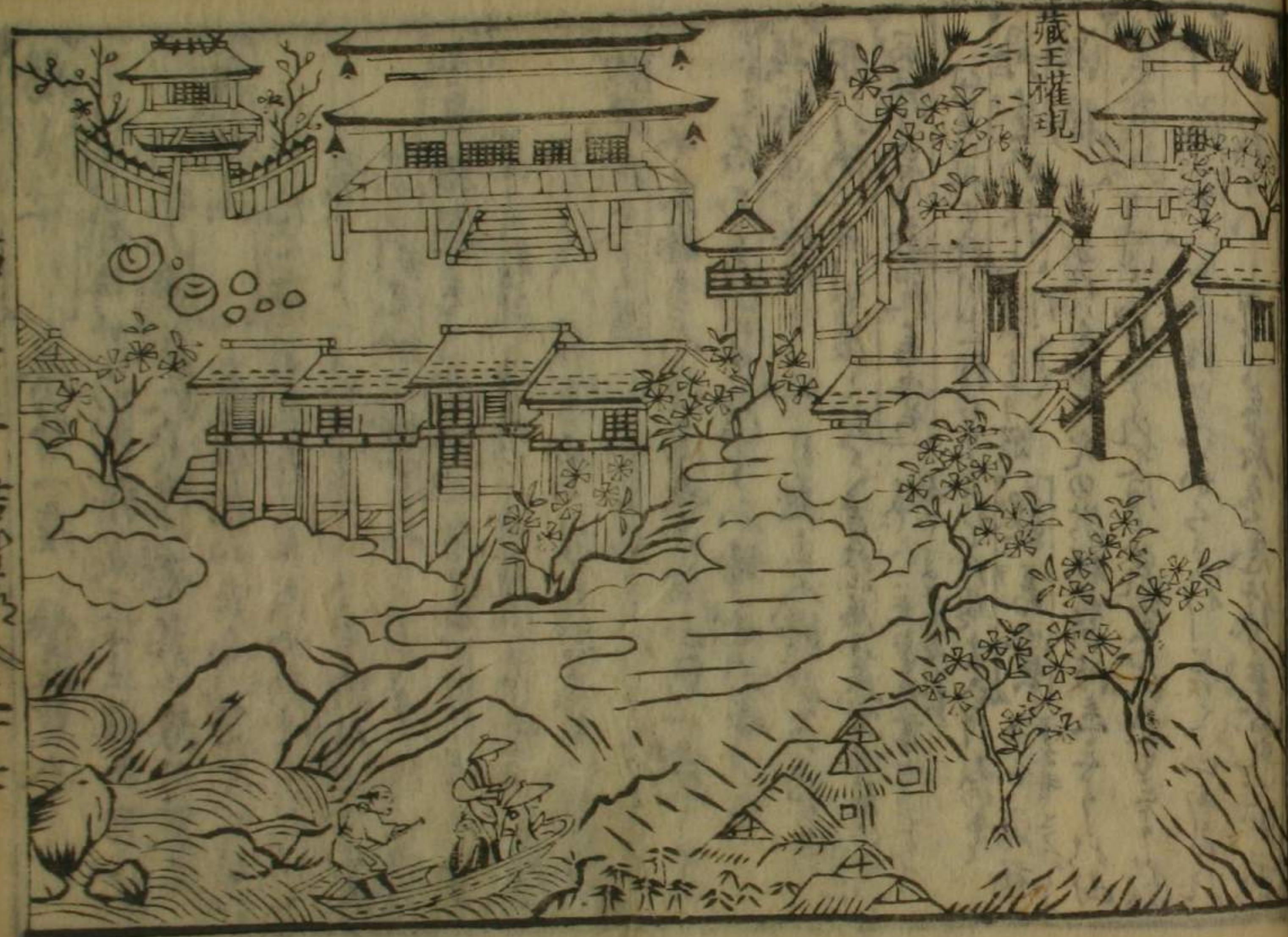
吉水院

養王堂 乃兼入 大園 乃兼入 乃兼入

依徳山

山号と云 乃兼入 乃兼入

藏王権現



吉水院 三

勝安社

祭神一座 愛暨令

天孫降臨乃時隱岐三十二社の内
此社乃最尊に天孫の遺跡あり
油振山 右小社祭山た小社振山といふ
乃頂上を於良志と云天女のまゝなりと
舞ししりけり

如志痛観者も塔尾山 本寺とて号す
是王位現る所への鹿ふ吉野より
野とて乃後あり 後醍醐天皇
後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

後醍醐天皇 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ
如志痛観者も乃さ 如志痛観者も乃さ

天川 高野山にあり天川宮の祀と云す也故

平尊院の爲名取れり云々といふ

山上養王権現

高野千種云云

養王権現の人王廿八代安閑天皇御幼
継体天皇の太子なり○安閑ハ向大兄
押武全日天皇の御弟也○天皇 継体
乃太子母とも云ふ云々日本紀
養王の金峯山と云す権現也○唐年史
昔及び志金峯山と云すなり
と云ふ云々の事なり
乃云々云々の事なり
乃云々云々の事なり
乃云々云々の事なり
乃云々云々の事なり
乃云々云々の事なり

小嶽 権現
三峯 権現
三峯 権現
三峯 権現

新仙 山嶽集 大峯乃新仙と云すなり

大峯乃新仙と云すなり

大峯乃新仙と云すなり

大峯乃新仙と云すなり

大峯乃新仙と云すなり

大峯乃新仙と云すなり

大峯乃新仙と云すなり

大峯乃新仙と云すなり

ハノヲ新藤澤のミヅアミダシノミヅノ
ミヅノミヅノミヅノミヅノミヅノ
法上人候難と云々たのミヅノミヅノ
あひらけはミヅノミヅノミヅノ

丹生山 下市村の豊 丹生川 丹生山
丹生社 一座 丹生川 丹生山
糸社 丹生社也 丹生川 丹生山

天野丹生社 八川丹生社 丹生山
天野丹生社 八川丹生社 丹生山
天野丹生社 八川丹生社 丹生山

十津川 大塔云々 吹田の温泉也
十津川 大塔云々 吹田の温泉也
十津川 大塔云々 吹田の温泉也

新井 安斎社 仙光社 吉野山
新井 安斎社 仙光社 吉野山
新井 安斎社 仙光社 吉野山

葛上郡 神社 佛 桐山 嶽 谷 本
葛上郡 神社 佛 桐山 嶽 谷 本
葛上郡 神社 佛 桐山 嶽 谷 本

葛上郡 神社 佛 桐山 嶽 谷 本
葛上郡 神社 佛 桐山 嶽 谷 本
葛上郡 神社 佛 桐山 嶽 谷 本

乃細くゆく終小致

一けり毛より葛城乃名あり日本紀

葛城山

又金剛山と稱す日本紀

一秋の天白元年之産虎三仙宮成於す

一天武天皇九年二枚生肉乃鯨角と為り

一同治天皇十三年小田原乃鶴と各組本

一善治の葛城山乃雲の志てとては妹婿と云人

一此山より善治山宮井月噴きて秋を味成

金剛山

大和河内乃境あり

天授元年乃流り流り流りて極致あり

乃今今本林乃金剛山と云又金剛

峯と云又傳曰傳曰又ハ一系峯西峯

又神祇堂山又大日布日高見四と云

是の月神所祀ありて名を金剛山

又善治終乃不流小田原と云起善治乃

津嶽と云故小田原山と号す

一山堂なる法起善治不流の王

善治善治乃三乃彼小角乃他あり

大峯小出流乃十又善治の八大金剛

の大峯小出流一七大峯子の金剛山あり

一山堂なる法起善治不流の王

一言金神社

葛城山と云これ之の神

大和貴命乃命なり又云事代

主神或の事代主命乃命なり又云

主と号す唯是天皇是葛城山不流

乃神善治乃一云善治乃一云善治

大平真字八年小田原位上乃善治

善治乃善治山乃善治乃善治

一地位 大親元年四月廿七日 夜二位

善治乃善治乃善治乃善治

又云善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

善治乃善治乃善治乃善治

多のこれと白名乃之陵と云り或は許波
琴引山 此引糸とて大和也山と云い不明

六河之河個大若乃 經乃ん琴引山乃若乃之乃

高野宮 經乃天也言乃乃の天と云なり

高野宮 獲我大臣祖廟と追憶す

高野宮 初安天皇 初て高野宮に遷す

高野宮 推古天皇廿一年三月に此處に

高野宮 假小角蓮生の所と云り村野乾

高野宮 孝昭天皇乃其那の卷に云い

高野宮 孝昭天皇也云云云々云々

高野宮 井武天皇國形と云い云々

高野宮 田子記云云他云云云々

高野宮 田子記云云味祖と云り

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

高野宮 高野宮 高野宮

卷向乃ありてありは山乃麓ふ十市
何しの城跡を色色と云ふに推尾乃
後述の日向郡今乃墓之

三輪山と云ふの整編し
密仁天皇天皇乃孫乃孫乃

珠城 珠城 珠城
珠城 珠城 珠城

卷向川 卷向川 卷向川
卷向川 卷向川 卷向川

卷向日代宮 卷向日代宮 卷向日代宮
卷向日代宮 卷向日代宮 卷向日代宮

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

三輪大社 三輪大社 三輪大社
三輪大社 三輪大社 三輪大社

らに妙せり ありと云ふもあまの
宮ハ三福乃山下杖立門 又は新宮と
て三福山小幡のつり女子は子あはわ
ひしと云はれはにちりく井ふおまり
これふりけ井の系と云はれ國菴
船乃人けふし中乃杖立はしり記まり
大御福也 三福社乃を云
用山慶法師しけり乃西面の角
ふ上代ふ三福乃井里女ふまあひあり
ゆみ十家ふりありふく定ふ入ありて
乃慶板小幡是乃杖立りも松今あて
りありと云り

天照若神此法度法

乃興あり崇神天皇乃所なり又十
二年大和乃三福山此法度乃上り
化りて二年御りなかりしけ時を御
入媛命今乃日足ぬと云ひしと云

海部板市

西津乃五十町小川のや村々
四下赤色年能善業此又此に記市
と云ふ是是元是或説るは記あり
乃子枕原氏此善の考に善也

三福山

夫と云は海部此山にむすむは海部乃
と云は後 海部乃中能乃上り
乃最く神打此山にありては海部乃
儀城乃金神宮 此山乃大和乃
儀城乃金神宮 此山乃大和乃

儀城乃金神宮

儀城乃金神宮

儀城乃金神宮

儀城乃金神宮

儀城乃金神宮

儀城乃金神宮

儀城乃金神宮

儀城乃金神宮

此山乃大和乃西面の角
ふ上代ふ三福乃井里女ふまあひあり
ゆみ十家ふりありふく定ふ入ありて
乃慶板小幡是乃杖立りも松今あて
りありと云り
此山乃大和乃西面の角
ふ上代ふ三福乃井里女ふまあひあり
ゆみ十家ふりありふく定ふ入ありて
乃慶板小幡是乃杖立りも松今あて
りありと云り
此山乃大和乃西面の角
ふ上代ふ三福乃井里女ふまあひあり
ゆみ十家ふりありふく定ふ入ありて
乃慶板小幡是乃杖立りも松今あて
りありと云り

此山乃大和乃西面の角
ふ上代ふ三福乃井里女ふまあひあり
ゆみ十家ふりありふく定ふ入ありて
乃慶板小幡是乃杖立りも松今あて
りありと云り

乃ほり小流の長谷寺ありて海に
二社ありて流るる流ありて流るるに云々下りて
河原川に流るる流ありて流るるに云々下りて
右川聖多 二か乃枚の有りてありて
二枚の枚乃云々ありて流るるに云々下りて

長谷寺
豊山神樂院長谷寺
五月廿二日 石村山 諸師記

乃ほり小流の長谷寺ありて海に
二社ありて流るる流ありて流るるに云々下りて
河原川に流るる流ありて流るるに云々下りて
右川聖多 二か乃枚の有りてありて
二枚の枚乃云々ありて流るるに云々下りて
乃ほり小流の長谷寺ありて海に
二社ありて流るる流ありて流るるに云々下りて
河原川に流るる流ありて流るるに云々下りて
右川聖多 二か乃枚の有りてありて
二枚の枚乃云々ありて流るるに云々下りて

儀法名所

白山権現

山口権現

与在山大権現

別院長勝寺

蓮心院

安楽院

養井坊

乃崎上人廟

乃崎稻倉宮

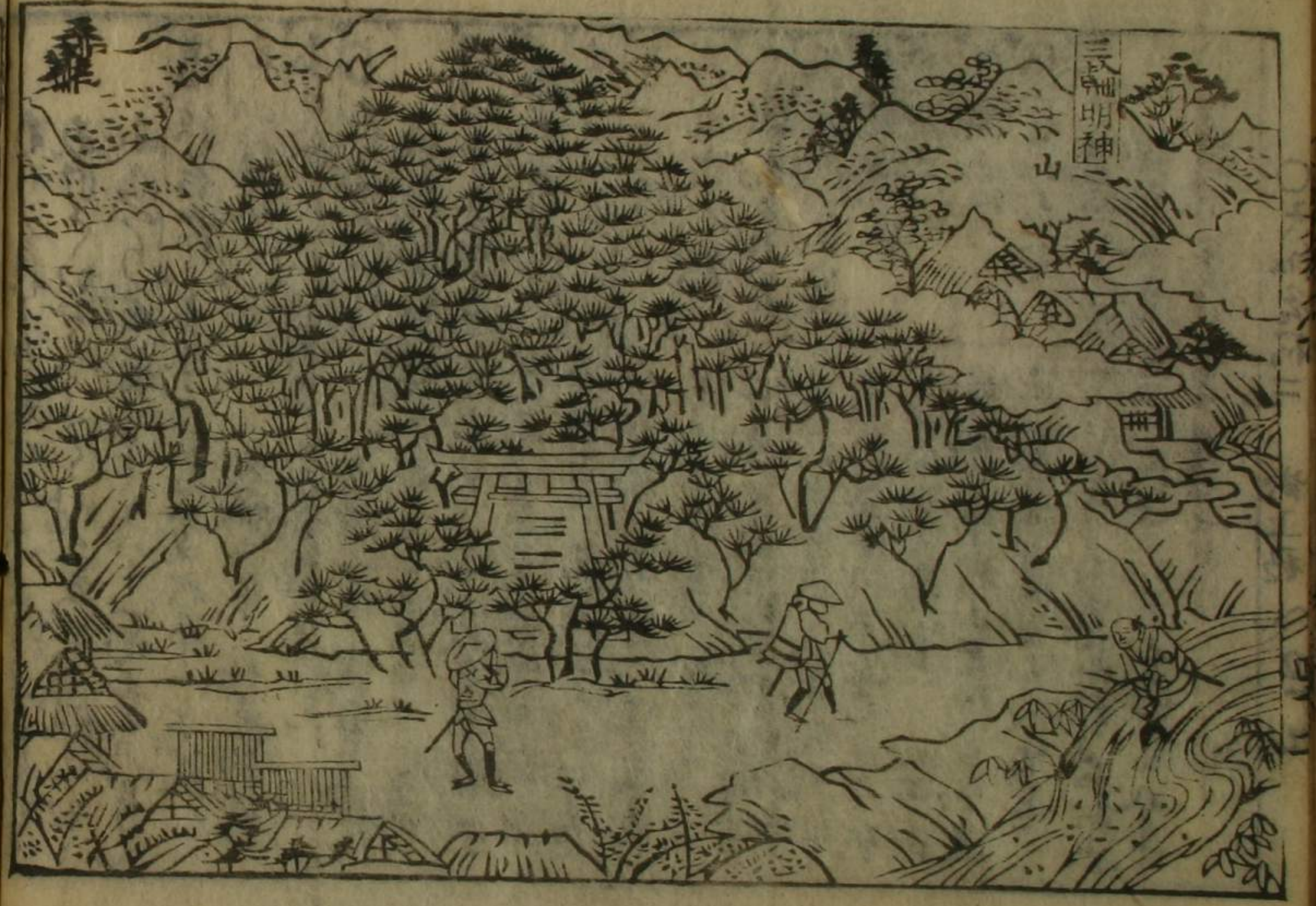
乃崎別院宮

乃崎新宮

乃崎小野

乃崎加志中

乃ほり小流の長谷寺ありて海に
二社ありて流るる流ありて流るるに云々下りて
河原川に流るる流ありて流るるに云々下りて
右川聖多 二か乃枚の有りてありて
二枚の枚乃云々ありて流るるに云々下りて
乃ほり小流の長谷寺ありて海に
二社ありて流るる流ありて流るるに云々下りて
河原川に流るる流ありて流るるに云々下りて
右川聖多 二か乃枚の有りてありて
二枚の枚乃云々ありて流るるに云々下りて



三輪明神
山



長谷寺

三輪明神
山

横井神社 今更に改めしを法三神の社

二丁少く大己命荒魂神の社

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

笠山 笠山神社 笠山小宮の仮りなる所

段の麓に石上乃木村と号し四家
小あけめありしに

▲高世天皇乃月以言六尺乃具村を
神符申てひくす御小瓶と云叙を

▲作階天皇元年位一位 御六宮石上村
小正一位と加階し

▲昔乃石川より一乃御流れありて
石乃石本と云り流るに叙織女のあり

布乃小正のなるをまり別村と相ひく
布乃御神と号す是乃井小正と云

り乃尚代六月晦日の系に乃院布乃
あり一叙と云り叙乃納め乃井の外

一乃叙乃乃後三貞中と云り乃肩ひり
けく乃のあり是乃後と云り

内山永之古推尾山新福寺ありしに
天子乃平余乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

石上非之古 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

推尾山龍福寺 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

開基乃基塔乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

内山金剛寺院永之寺

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃家も春僅先任者田村の亭小田
章乃のりしりた聖國史小田とく
作新村地誌

木原村
山色山井 山色山井
二階堂 二階堂
今二階堂村小の計の
伴若天和の内ふ史より
石より十五六丁神 卜畧

會田墓 會田墓
仁賢天皇乃皇女次
乃天皇の母后之危く大乃乃山
係小山陵とそりとも古懐乃松あま
くあり世乃四趾と傳を共よりあ
今二階堂の仁不大乃乃山の
山係小若穴のらと云かざりりわ
くこも係小千極とそりり是の古に世
小穴あとも乃ありかんそりりく
穴ありとそり係懐とららるる

會道引山 會道引山
二階堂の仁不大乃乃山の
山係小若穴のらと云かざりりわ
くこも係小千極とそりり是の古に世
小穴あとも乃ありかんそりりく
穴ありとそり係懐とららるる

千極 千極
二階堂の仁不大乃乃山の
山係小若穴のらと云かざりりわ
くこも係小千極とそりり是の古に世
小穴あとも乃ありかんそりりく
穴ありとそり係懐とららるる

大倭大國神社 大倭大國神社
大宮一産大國神社 事紀二白素蓋
鳥居見大歲神共皇大國神社母須
活法女神大和神とく二宮大歲神
三宮須治法女神 右魚友注
宗神天皇六年回乃月夜疾流
とて人あつたす月七年天白きは
と歌さるるに傳述凡百世
小大物主命ありはくそりりく
後小氣いれ大物主神と我思大
相子とく我とそりりく

多田本迎寺 多田本迎寺
日本紀神階初從一位後正一位
ハ川名大川乃の傳述凡百世
貞安七年小日城才乃取不系
一とくこの傳述凡百世
多田本迎寺大和十市乃とそりりく

長尾市と傳述凡百世
相子とく我とそりりく

貞安七年小日城才乃取不系
一とくこの傳述凡百世

多田本迎寺大和十市乃とそりりく

うへつりしが元暦に達し小のりく
多田本達吉のふりしりははまこ徳
まはくのの瑞祥寺に於けるもつれり
くりく縁紅ふまふりひさる永久寺より
二里半許りてふまふ

笠間山

伴武乃母孫し
なすふりて川三又里程し

山

中州去
まふん望みれまのをれり町中しおまの成る

▲高市郡 神社弘國山嶽名所
い郡の大和國乃府中地

細川山

支武峯乃西あつてまふ
ちより十又町し細川の水を流りりく

まは坂田尾古に流れり

新洲山

細川山乃むのとの山
百は合原新洲山の若し雲を成りける

新洲山

南洲山二里半をり
北秋もや新洲山乃登峯より新洲を成り

新洲山

法元原宮 付新洲宮 俗小津浦と云り
細川村より四又町あしと石の流るま

あしと新洲の流るまふまふまふまふまふ

龍宮

龍宮 天武天皇のまふ

天武天皇のまふまふまふまふまふ

よりまふまふまふまふまふまふ

小まふまふまふまふまふまふ

二年ふけまふまふまふまふまふ

東西市

天武天皇のまふ

南洲山

南洲山 二里半をり

橋山乃尾はたのふまふまふ

人まふまふまふまふまふまふ

大和國高市郡坂田原小津宮と云り

仏と云くまふまふまふまふまふ

とまふまふまふまふまふまふ

り用ひまふまふまふまふまふ

乃まふまふまふまふまふまふ

とまふまふまふまふまふまふ

とまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふ

あて徳海法... 推古
天皇十三年小磯我馬子元興寺
と建平のを金堂乃中寺大六乃
敷也乃倫と丸輪船の多次奈家
乃多轉他乃新と云ふ小宮執ありく
仏巧とつらつらめ多の... 縁必
一雲中ふ安后せりく... 縁
す大仁乃位と法のと... 全に... 坂
田般ふ能く... 田廿町と... 縁
乃多い田... 天... 亦... 全
ちと... 坂田... 縁
は... 乃... 縁
徳... 日本紀

小磯田宮

又小磯田宮... 皇極天皇... 日本紀

板田橋

細川乃流... 日本紀

東光山純養寺真珠院

又云... 日本紀

舒明天皇乃皇... 天智天皇乃... 日本紀

折田

折田... 日本紀

花巻

花巻... 日本紀

後苑

後苑... 日本紀

後苑

後苑... 日本紀

後苑

後苑... 日本紀

橋寺

橋寺... 日本紀

田中宮

田中宮... 日本紀

田中宮

田中宮... 日本紀

十二年四月... 日本紀

十月三日 百瀬 水あふり多し 十三年十月
麻坂 今も赤松 彦神天皇十二年 極坂の上
阿トキ 阿直岐と申して西海のこをい
ハヤヒ 譽めあひのふかれの麻坂とあはれと
麻坂宮 神武天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

麻坂宮 彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇
彦神天皇 彦神天皇 彦神天皇

後有の智也わつる人のかれつる人
をくはつる人など生かす後乃めり
ふとく短た早くの天皇を法
さけふと大なる悲傷ましくこれ長
風なれはいとくさげたり後能業
と多すまふれと辨に小報命し
は後よりあつ田中の小尾乃
大なるにあふ尾乃名徳と
今これにさるの換板と云も名徳とあふ
右乃徳又右乃蓋あくとくいふと
世にれいあわらむあけあはれとひひ
ごうにたけまはし後とまるとあふ
たありと名居のとたふあふ

排花多坂上陵

廿九代宣化天皇之陵

排花多田上陵

廿九代宣化天皇之陵

日皇居排花女之徳也合葬也
は後号し宣化天皇に別稱あり
三つさふといふかたりとふりすつと感
古事記に排田と云と
いふ乃あふ信小尾の頼田とくを好田の
中ふ石山く他はる頼田のまはる川奈
とく炎皇乃頼ふあつり一川の法派乃

頼田りをれとさふあかありま
とくよれつひるれとさふ又れあ
方はさるはさる上は信小耳あつる
めらりいあつとく内小のあつと
あふ付着る石指乃あつりあつり
るはあ乃とくあつり一年安乃池
十布般早雲山乃藤小と信れいと
元来あつり

味檀

玉林抄不考浦志れ東橋

味檀のあつり元恭天皇は味檀
方乃姓氏とあつりまはるまはる
そいあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり

味檀丘

味檀丘のあつり

味檀丘のあつり
味檀丘のあつり
味檀丘のあつり
味檀丘のあつり
味檀丘のあつり
味檀丘のあつり
味檀丘のあつり
味檀丘のあつり

子女子と皇子といせり城門乃結搦
古今不出也せりを傳達乃知る亦竟
小天のうさふ命をさしりて傳得乃
奏と最まり入麻少撫へる刑門の流
味檀丘より西の太平記所謂越智某佳也

越智

付間人皇女陵 大田皇女墓

越文野

越村有真弓村

作古墓

吉佐傳皇祖母命ノ葬

冬野古

又妙合寺 又武蔵寺 冬野村有系刻石

深谷皇陵

冬野村の邊に依る云々の古墳と云

鈴の天皇御所

在尋後三押坂山陵也

菅原相山庄

西谷に在り多天皇御所幸此

小野榛原

畝傍村より神一里許

神武天皇

海内公平の山の中は

小野乃榛原

乃榛原と名付く皇祖神と祭

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

皇見白山

又皇見白山山云々

仏と雖後乃りなり此ふ志のめけり日本紀
一柁は白系時の中納言俊乃りしめ藤原
氏二代乃りし美少く石川の精令と云
冠火乃り後又元興寺と云けり也

石川精令

石川精令 石川口也
いふ少くこのころいふ東ふ初め元興寺
れ東ふ此のころの四條ふ系と云
曾世代敏達天皇十二年百海乃
遣使二人の持来りて弘勳乃石川
依像一程入海す藤原の子は二程
乃依像と云ふ舟傍危と云徳一佛
殿と云ふ乃東ふ梅へ石仏と安五一三
尺一程と依像せりわと大志と云り
乃ひたり此の志あひのりてま
と云わぬ沈色水面可なり建業と云法
と云ふと云て云ふなりも子宿禰又
石川乃家不依殿と依りて併乃居れ
りて云ふなりけりて云ふ

大野正徳

石川口也

多子大野建業なり目も建業なり
此のころ一橋乃橋乃小納言なり故ふ
天付不幸ありて國難小腹痛お

りて人氏おりて疾死す徳急乃あや
亦妖害と仰懐ふゆす本城乃忠列
時然乃怪業と云塞去く大ふ不
と打破と云ふ小あを塞去く大ふ不
氣と云ふなりす橋乃豊日皇子の
そに妻と云く之矣と云ふ料汝に
大なりも子も又云三矣と云協
石川と云ふと云ふと云ふと云ふ
より後汝徳り依法と云ふ一一人と
もいふなりぬれり子信ひ精令と云
て依像なりしなりを年乃八月小天皇
出御ありて云ふなり

大野正徳

石川口也

元興寺の石川の精令大野正徳の
焼杉のりしり後乃建立と云ふなり
ち号又の飛多ると云法興寺又大樂寺
又云浦寺又橋井乃場なりと云り
ちも大長と云ふは後藤我大長也
乃飛小建立は推古天皇四年に於
て門小款と云ふ南元興寺北法満寺
東飛多ると云法興寺と云けりなり
人皇十四代元正天皇皇孫二年小

蘇我子山地

蘇我川乃傍と云今不ふか
元恭天皇即位の事

志の目香宮

蘇我川乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

蘇波埜

蘇波埜乃東乃門の

蘇波埜

蘇波埜乃西の入口に在り

神八井耳余陵

日宗 倭天皇の御足余之

安寧天皇陵

日神 蔭井上陵と云々

三山 美豆山

此山乃山畝傍山耳云云

檀原宮

檀原宮ハ八王弟一

國源寺

六十四代高麗院内

久米邑

神武天皇二年道長令切

久米川

日本紀云云

益田池

久米古の池云云

久米寺

久米の仙人の建立云云

氏内宿禰墓

此是宿禰益田池ノ坤

檀原宮

檀原宮ハ八王弟一

國源寺

六十四代高麗院内

久米邑

神武天皇二年道長令切

久米川

日本紀云云

益田池

久米古の池云云

久米寺

久米の仙人の建立云云

氏内宿禰墓

此是宿禰益田池ノ坤

檀原宮

檀原宮ハ八王弟一

國源寺

六十四代高麗院内

久米邑

神武天皇二年道長令切

久米川

日本紀云云

益田池

久米古の池云云

久米寺

久米の仙人の建立云云

氏内宿禰墓

此是宿禰益田池ノ坤

作取 古世應取と云 河林採要

作取乃孫乃回故の古世大和国... 乃成これと云く作取乃孫乃孫... 河国大信乃里小信一人これ別人... 万葉 万葉社ありて乃生てあはれ白髪... 首をさきく万葉集小ることあり

壺坂寺

又古法志古と号す 古坂寺子孫親高 道基上人乃他 開基の元興寺海音... 壺坂寺八町許あり古坂寺と云ふ... 壺坂河原 八村より下あり古坂... 壺坂河原 壺坂河原乃古坂の地と云り

金持宮

古八代安閑天皇乃文持也又古金持宮... 古金持宮乃古金持宮也

古神社

古神社乃古神社也 古神社乃古神社也

古市社

古市社乃古市社也 古市社乃古市社也

古宮

古宮乃古宮也 古宮乃古宮也

古宮乃古宮也 古宮乃古宮也

皇親水師融公小守及母と結て極備
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
之入其妻と多しはく長妻と

水室
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と
皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

皇極天皇乃此山押坂直と

性世小在神宮市猿座乃修

油木朝倉宮

惟皇天皇御宇廿二年

豐受志神美丹波志吉作志りう

つり多のく倭國の及宮小由一宿ま

しくそ伴賀志六歳之小由二宿ま

くそれりりあく難之小由まり分ひて

九月小伴智國山田原乃新履小修り

神戸 天照皇志神志宮之及乃秋

宮小四年初のまり

中一そまの世紀小まを

わりのまの乃名と神戸と

平けりあ

竹川 小少志志大和河川四記

志生山櫻生志

山号或ハウ一山又西一山

双乃志志乃勝地

志相兼乃

山神小安直

隆志と号す

とや

也移と

乃内と

掘志成

興福志乃

龍穴社

長女

志入

所志

鷲山

大養寺

志志

城下社 神社併欄在所

屏風里 黒田村乃小十郎下

聖徳太子熊乃文より橘乃文小指
あふ新乃乃中務卿より伏見とま
るに屏風とまよりいけ名もとま

黒田村乃小十郎下

鏡他社 八尾村二座 一座鏡他麻尾社

は神天藤戸命一座は伊多社 神は
石築院命根藤戸命の由子 石石藤院命

天照太神若戸小よりせり天乃
かく山洞と九月像乃鏡とる経ひ神

鏡池 古井の円小之林鏡とる水

韓人池 八尾村乃小十郎下 神天
皇七年元元三韓の人等以柳の池

法樂寺 黒田村乃小十郎下

元ハ孝具天皇乃陵亦之聖徳太子の
開基とより神乃勝軍地蔵秘伝

文古森 新嘉新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

飯多 古新新をより下たて吉野人

い色村屋村と書ありと云々祭神ハ
赤富於古賣神社 延喜式 以由神ハ
飾靈祖と云々 其紐のより月本
紀ふらりくる 叔神切ハ天武天皇
と大伴皇子と皇孫と云々 雄旗と
ありそこの多の村屋乃神神人ハ
此神と云々 天皇乃のむむを云々 此
りとはげあふゆのうと天皇降臨に
勝利と云々 外二神乃切ハ云々
三神乃切と云々 敷魚と云々 敷ひあく
神蹟と云々 大伴皇子乃領と云々 日本紀云々
大伴皇子乃領と云々 日本紀云々
神山 今果云々 天平庚寅二年城下取
大和神山小倉生より云々 振小文十六
まじり乃のいふ云々 文云々の
王大郎并天下人ハ門使云々 平
氏守具命ハ 廣日本紀
三宅道 小倉小三宅ハ城下取云々
今も所と云々 小倉乃命ハ 所
三宅ハ官乃殺命云々 新日本紀
又案云々 小倉乃命の系と云々 所
又并久津の三宅乃系云々 あり

▲十市社

神社仲 槻屋所

磐余堂主文

又池田云古事記 皇孫曰大伴依の系有昔皇と撰
田と云いふ云々 世代 敏達天皇皇孫 敏
池名 磐余堂 又磐余池名 皇孫 宮と云

磐余池

又案云々 磐余池ハ 磐余堂の池の里
磐余堂ハ 磐余堂の池の里
磐余堂ハ 磐余堂の池の里

磐余堂

又案云々 磐余堂ハ 磐余堂の池の里
磐余堂ハ 磐余堂の池の里
磐余堂ハ 磐余堂の池の里

磐余堂

又案云々 磐余堂ハ 磐余堂の池の里
磐余堂ハ 磐余堂の池の里
磐余堂ハ 磐余堂の池の里

磐余堂

又案云々 磐余堂ハ 磐余堂の池の里
磐余堂ハ 磐余堂の池の里
磐余堂ハ 磐余堂の池の里

は花乃を赤せとくせ流らざらむと
修らざるはひふ長と臆連ひたり
花と赤くは花が根上乃を山あり
橋と云くは修らざらむとめつとささ
小思せざる敷感さうしては橋と
云入る名あそりけり日本紀云

磐余産虎栗宮

自香谷城上云 清寧帝都

磐余聖王

磐余の命花産さうりお産産産

磐余玉徳宮

北七代継禰天皇八攝長

磐余

小うろれて磐余玉徳宮と云る

磐余乃

磐余乃乃回石八斤辰又八斤立と云日本紀

磐余

磐余乃乃回石八斤辰又八斤立と云日本紀

磐余

磐余乃乃回石八斤辰又八斤立と云日本紀

磐余

磐余乃乃回石八斤辰又八斤立と云日本紀

大舞臺

榎井町の神長門里の地と云る

安倍山系敷

古伝云石大舞臺の古

阿倍

百三昧子いあそりけり日本紀云

安倍橋

阿倍橋の古長く何林採栗小載られり

胎前村

胎前村の古長く何林採栗小載られり

橋下

橋下の古長く何林採栗小載られり

鏡池

鏡池の古長く何林採栗小載られり

磐余

磐余乃乃回石八斤辰又八斤立と云日本紀

磐余

磐余乃乃回石八斤辰又八斤立と云日本紀

磐余

磐余乃乃回石八斤辰又八斤立と云日本紀

磐余

磐余乃乃回石八斤辰又八斤立と云日本紀

磐余

磐余乃乃回石八斤辰又八斤立と云日本紀

神代糸日像乃後世のなり

萩田古 又并乳古と号す其の南萩田村也

二階堂 天和のく山の東に在り今この地能を

天香久山 於裏に云け山の在り

あつと云 弁枕ふ云け山の在り

あつと云 披瀝ふ云と云い又云真若と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

あつと云 西小南浦と云くをそとに天香久山と云

倉橋離宮

倉橋齋宮

下宿里

紫後天白皇後

倉橋山

多武峯

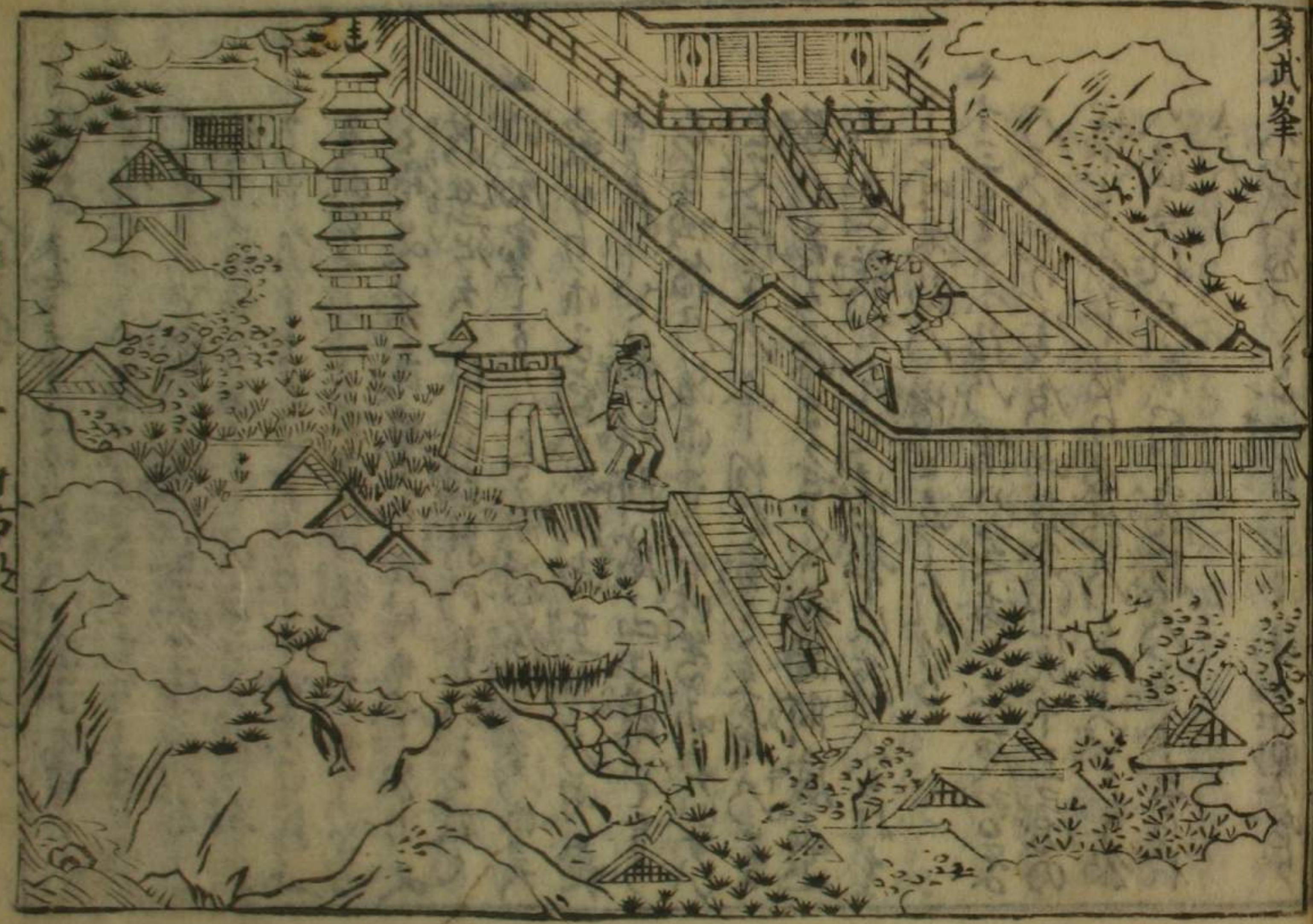
天武二年、此年あり、主
天武天皇七年、大伴氏を
たふの峯の東に倉橋を設け
たふの峯の東に倉橋を設け
たふの峯の東に倉橋を設け

東の市郡二郡あり、山あり、
年七月八日に山乃麓あり、
二丈深サ一丈二尺、中一
尺七寸、禁中あり、三代

書あり、東の山あり、
別山あり、金峯山あり、
失ハ武峯あり、山あり、
東の倉橋あり、山あり、
山あり、山あり、山あり、

談山妙樂寺

談山妙樂寺、後園院ハ大藏冠道長ニ
乃由ニ定メ、山あり、
後山又談山、又談山、
又龍山あり、山あり、



多武峯

皇子 天智天皇之中孫乃孫子大連らの
 と命せし入麻乃連長と云り然りんと
 てゆきと將く城乃森倉指のりん子
 後乃花のトありとひるすと云ひやれ
 うとひましくしてよりと云ひはら
 るれわさしけし下れれば後奉平といふあり
 と云ひ疾武皇と名付ありとあり又
 終無怒といふは記於の勢いなり故に
 此廟室しりい大織冠強良の此天
 武殿なり此子定武皇高直廟乃時薨
 せられと按別所威山小藤の事あり
 ちら吸納乃後亦不吐等小あひい
 云又存生乃命何れ育と云廟乃養
 熟乃若るはまをせと和尙阿威山小
 乃志能と云て後奉平に葬らるれそ
 上小来納乃懐と云れり

▲十二聖来納乃懐は定武皇高直廟の事
 乃みり後原山資清院十三層の
 懐せりし依り吸納乃小つと云れ
 へ後され大織冠高直廟乃上小来れ
 たり

▲大織冠乃高直廟の正に國を男なり

可造なり又掛披千漢法師巨徳成
 依り像中ふ多男丸く不世乃徳と依り
 こめ安達寺と云し後紀左太い之惠
 和尙法海公たり神階八心一位徳一
 等又定長四年以後山持法と勅書と
 ▲大織冠乃高直廟は天下ふありありん
 ちくはありす被装しふふ先永義
 元年四月廿四日右乃西面叙曰す余
 被装しありしりこ本文治三年と
 十二聖来納はまをせと云はれは

▲同記ふるは十被装乃友毎小出大波
 と云はれは勅使登山と云く宣令下
 じふとありふ小出す食ま在後由同記に云
 ▲炎上再興の三聖友ふ及大興福寺此
 後懐然と云ふんで懐と云りふ毎
 遠皇治承元年以来を世寛文七年
 小出生二聖あり 後書云

- ▲妙雨寺 又聖皇院 常行三昧堂 住持立
- ▲生像堂 定惠親 七十余神法中社
- ▲傳堂 定惠親 後永成堂
- ▲金堂 定惠親 必法堂 天照信託
- ▲法堂 三昧堂 村上助 曼陀羅堂 住持二

普門堂 本殿院勸修舎堂 慶長五年昇遷

其外法依蓮花のりく 巽祀ニ云々云々

お泉洞 四代 文武殿の足名と云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

又倉指山 文武殿の向名乃めり云々

十市里

この市里は、竹九郎の所領に十市郡
を山崎のひんげりの所領と出せり

多社

八木村の五里の所領の五六十段あり
跡志理神社古神社二座あり

常盤里

耳太山の赤常盤村の旧名山嶽と
名をいふ所也これ松の徳目と云はれり

徳後

信濃郡津と云十市郡神乃と云
六水原の所領の所領の所領の所領

竹田村

大津坂上而竹田庄と云り竹田
と云はれり所領の所領の所領

▲和列郡内古伝古伝未考し分た

大蔵野

大蔵野 上田の所領
大蔵野 上田の所領

口無山

口無山 上田の所領
口無山 上田の所領

樟系宮

樟系宮 上田の所領
樟系宮 上田の所領

折廻里

折廻里 上田の所領
折廻里 上田の所領

あつ乃池

あつ乃池 上田の所領
あつ乃池 上田の所領

香梅山

香梅山 上田の所領
香梅山 上田の所領

玉井沼

玉井沼 上田の所領
玉井沼 上田の所領

足外系

足外系 上田の所領
足外系 上田の所領

新池

新池 上田の所領
新池 上田の所領

常浦

常浦 上田の所領
常浦 上田の所領

今治山

今治山 上田の所領
今治山 上田の所領

孫魚山

孫魚山 上田の所領
孫魚山 上田の所領

新木川

新木川 上田の所領
新木川 上田の所領

小糸の池

小糸の池 上田の所領
小糸の池 上田の所領

小糸の池

小糸の池 上田の所領
小糸の池 上田の所領

▲大和郡伝方道分

大和郡伝方道分
大和郡伝方道分

伏見 上田の所領
伏見 上田の所領

長流 玉乃一里半 本流 二里

本流 玉乃一里半 本流の入り口は本流

川をわたり流るゝ水出れの舟泊 舟泊の

▲物置とくろの末小三村を▲とんのり

城をとり末乃言山古儀 徳をけし乃藤

とん乃れ末と云▲かせ山 勢一く苗方の

山つとこ▲市坂を山城大和乃さふい

た方石橋を▲さり川 舟川にけりれ

山とさり山とさきけし山小の山城小はく記

西乃尾の文和流下船さふい

宗末 舟泊市 三里 ▲舟の尾の末流と

船小のりくさるせり

丹波市 三里 三橋方 二里

長谷方 二里の巻 重 多の巻方 二里

吉野 二里の巻方の巻末 三里

▲系方 船山とさく吉野の船

▲さしなまのさむを智くさく船

玉乃 二里 玉乃 二里 玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

玉乃 二里

